

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの目標実現に向けたカリキュラム・マネジメントを進める。 ②工業高校生に求められる学力の向上を図る。	①基礎学習の時間の有効な活用 ②基礎学力の向上 ③工業高校の授業のあり方、評価方法について、検証、改善する。	①1学期の基礎演算補習を昨年同様に行う。2学期以降は基礎的な学習の学びなおしを行う。 ②平成31年度入学生から中間試験をなくした代わりに、生徒や担任へ評価のフィードバックをする方法を整理する。 ③授業改善について全職員で取組み多面的な分析を行い工業高校に適した改善策を見いだす。	①2学期以降の課題・実施について整理されたか。 ②成績会議の協議対象になる生徒は減ったか。 ③授業改善を通して、生徒のやる気や学力の向上に繋がられたか。	①担任団が生徒の状況に応じた課題を作成した。 ②昨年53人から63人に増加した。 ③ICT機器の活用により、主体的な学びに繋がられた。	①課題プリント内容の一層の充実を図る。 ②評価のフィードバックで生徒の意識は向上したが、成果は思わしくなかった。 ③ICT機器の導入に職員も期待感を持っているが、使い方については、まだ模索段階である。	②成績会議の対象生徒の増加原因の検証を進めてほしい。 ③ICT機器の導入を積極的に行っていることは評価できる。学力の向上につなげてほしい。	①生徒に応じた課題を作成できた。益々充実を図りたい。 ②生徒の意識は向上したが、成績不振者の増加が課題である。 ③今後のICT導入の基礎を作り上げた。	①生徒との連絡を密に取り、課題内容の一層の充実を図る。 ②成績会議該当者への検証を一層進め、原因を探る。 ③世の中の動きに合わせて、ICTを利用した授業を進化発展させる。
2 生徒指導・支援	①社会や産業界に期待される規範意識の向上を図る。 ②豊かな人間性や社会性を培う生徒の主体的活動を支援する。	①「磯工ブランド」ブランド力の向上を図る。 ②交通安全意識の向上 ③部活動における主体的な活動の支援 ④生徒の健康を支援	①生徒が、主体的にブランド力を高めるように、「あいさつ・身だしなみ・思いやり」の重要性を繰り返し説いていく。 ②学校生活・日常生活において交通安全に対する意識の向上を図る。 ③部活動において適切な休養日を含めた年間計画を作成し、見直しを持って心身の疲れを取り除きながら活動の質を落とさずに取り組める効果的な活動を推進する。 ④生徒の健康状態を把握する。	①生徒が「あいさつ・身だしなみ・思いやり」の重要性を理解し実行できたか。(生徒アンケート実施) ①安全意識の向上が図られたか。 ②部活動において適切な休養日を含めた年間活動計画を作成し、計画通り効果的な活動ができたか。 ③生徒の健康状況の検査および相談を実施できたか。	①極少数以外、理解し行動した。 ②交通安全高校生大会を実施し、意識を向上させた。 ③各部が適切な年間計画を作成し効果的に活動した。	①1年生の問題行動が前年度比4倍と激増した。全学年でも33%増えた。遅刻者も全校数の12%になった。生徒の意識改革が必要である。 ②交通安全高校生大会参加生徒以外の生徒の交通安全意識を向上させ、交通安全教育をさらに推進する。 ③各部の実態に応じつつ、休養日を確保しながら効果的な活動が可能となる内容を検討する。	①多数の生徒が「磯工ブランド」を理解し、行動していることは評価できる。問題行動については、定員割れにも要因がある。 ②充実した交通安全大会が開催できた。 ③部活動が年間計画を作成し効果的に活動していることは評価できる。	①「磯子ブランド」に対する意識は向上したが、問題行動を減少させることが課題である。 ②安全意識の向上は図れたが、交通安全大会は、一部だけでなく、他の生徒にも参加させてもよい。 ③各部が適切な年間計画を作成し、効果的に活動できた。	①問題行動に対する生徒の意識改革をさらに進めていく必要がある。また、地域の一員であることも生徒に意識させる。 ②交通安全大会参加生徒以外の交通安全意識の向上を一層推進する。 ③休養日を適切に設けるなど、年間計画に沿った適切な部活動を今後も継続して行っていく。
3 進路指導・支援	①生徒一人ひとりの可能性を引き出す進路指導を行う。 ②社会・産業界に期待される資質・能力を育成する。	①充実した進路資料の提供及び進路相談の充実 ②生きる力習得のための指導強化	①分かりやすい、使いやすい配付資料の作成及び利用しやすい閲覧室の配置ときめ細かい進路相談等を実施する。 ②ビジネスマナー向上のための挨拶・服装等普段からの徹底指導。コミュニケーション能力向上のための面接指導。他教科との連携による一般常識等の基礎	①配付された進路資料と閲覧室が生徒に利用しやすいものであったか。進路相談等により生徒の個性と特性を十分引き出せたか。選択した進路先が生徒にとって充実した満足のいく結果が得られたか。	①新書棚による資料の配置換え、使いやすい求人一覧表の早期配付、きめ細かい進路相談を実施した。	①今後も分かりやすい資料の配付は継続し、1700社以上の求人票の早期配付のための検証、1、2年へのきめ細やかな進路相談も必要である。 ②就職1次合格率90%であったが、生徒のコ	①進路指導室の資料の充実として配置換えや早期配付等は評価できる。 ②先生方が親身になり、一人ひとりの進路の相談に乗ってくれ指導していただき感謝して	①進路指導室内の資料をわかりやすく整理し、生徒への進路指導を効果的に実施することができた。 ②就職1次合格率は高い数字を出すことができた。今後も水準を維持するととも	①進路指導室内の資料整理のさらなる充実と今まで以上にきめ細かい進路相談を目指す。 ②生徒一人ひとりに寄り添った進路指導を継続すると共に、ビジネスマナー向上のための

視点	4年間の目標 (平28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月27日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		②資格、検定取得の支援	学力の向上。以上を全職員共通理解の基で実施する。 ②資格・検定取得の支援を充実させる。	②社会に必要なビジネス マナー及びコミュニケーション能力が十分身についたかどうか。 一般常識等の基礎学力が向上できたかどうか。全職員による共通理解が得られたか。 ②資格・検定取得の割合を高め、取得率が増加したか。	②外部講師講習会、面接練習を充実させた。 ②各種補講を実施した。	コミュニケーション能力の向上が本当に向上したか検証が必要である。 ②取得率の向上は評価できるが、もう少し合格率・取得率の向上が必要な資格・検定もあり、補習等を増やすなど今後も積極的な支援が必要である。	いる。また、合格率だけでなく、早期離職をなくすことを目的に指導を進めることも大切である。 ②先生方の指導効果が表れていると感じる。	に、生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることが重要である。 ②先生方が積極的に支援している様子がわかり、評価できる。今後も継続するとともに、補習等は発展させてもらいたい。	指導やコミュニケーション能力向上のための面接指導等をさらに充実させる。 ②生徒の意識を高めることと同時に、必要な補習等の内容を充実させたり、回数を増やすなど、積極的に支援していく。	
4	地域等との協働	①産業界との連携の充実を図る。 ②地域との連携・協働を推進する	①デュアルシステム・インターンシップ充実の方向性の検討 ②地域連携の推進 ②より地域に密着した、工業高校を目指す。工業高校としての活躍の場を見だし、生徒が活躍できる場を提供する。	①2年生で実施しているインターンシップと3年生で実施しているデュアルシステムを拡充し、将来の職業選択の認識を広げ好ましい職業観勤労観を養う ②近隣の小中学校に出向き本校のPR活動を行うとともに地域貢献活動を通して工業高校として出来る内容を精選し、より地域に根ざした工業高校を目指す。 ②地域連携活動の内容について、再度検討し精査する。 ②防災活動を通して工業高校としてできる内容を精選し、より地域に根ざした工業高校を目指す。	①参加企業、体験生徒数の増加ができたか。また、キャリア教育として、適切であったか。 ②小中学校への訪問件数が増えたか、また内容が適切だったか。 ②生徒のやる気の向上に繋がられたか。地域からの声を検証する。 ②地域自治会と防災活動で連携実施できたか。	①各科の課題研究発表会を実施した。 ②地域貢献活動の達成感と地域からの期待感を生徒が実感できた。 ②磯子消防署、地域自治会と連携し放水訓練を実施した。	①各科の受入企業を増やし、生徒の参加率を向上させる。 ②地域貢献活動を精選し、地域に対する細かい活動を積み重ねる。地道なPR活動を継続して行い、旧態依然としたイメージを払拭する手立てを見つけ、工業高校生が活躍できる場所を多く見出し且つ提供の場を作る。 ②消防署、地域自治会との連携を継続し、さらに強化を図る。	①生徒の発表会に参加して、生徒の成果報告を直に聞くことができ大変参考になった。日頃の成果を生かす体験ができていると感心した。 ②カリキュラムの関係で地域活動参加が苦慮される場面があるが、活動を継続することができた。 ②充実した連携ができた。	①各種発表会を実施し、体験内容を共有し、成果をあげた。 ②地域貢献活動を行うことによって、生徒が地域からの期待を認識すると共に、自らが達成感を感じることができた。 ②充実した放水訓練を地域自治会と磯子消防署と連携して行うことができた。	①受け入れ企業をさらに増やし、今後も多くの生徒が参加するよう指導する。 ②今後とも地域社会に根ざした指導を継続すると共に、さらなる地域との連携を強化する必要がある。 ②放水訓練の内容をさらに充実させ、連携を強化させることが大切である。
5	学校管理 学校運営	①事故を防ぐ業務手順の整理 ②防災に係る校内体制の整備	①校内の施設・設備の安全対策の強化 ②内規マニュアルの見直し ①校内美化とゴミの分別の推進	①部活動における活動場所の安全点検実施で判明した要修理箇所への速やかな対処が可能な指示系統の明確化と手順書の作成をする。 ①ロッカー等の転倒防止措置の徹底 ②内規マニュアルで修正が必要な箇所を確認し、適正な文書に整理する。 ①リサイクルゴミ分別の徹底	①要修理箇所への速やかな対処が可能な指示系統の明確化と手順書の作成ができたか。 ①転倒防止の具体的な対応ができたか。 ②防災マニュアルの必要な修正等ができたか。 ①リサイクルゴミ分別に必要な改善ができたか。	①要修理箇所の対処は出来たが手順書作成には至らなかった。 ②マニュアル見直し、各種対応の徹底は出来た ①ゴミ置き場でリサイクル分別の指導を徹底した。	①手順書を速やかに作成する。 ②防災マニュアルを必要に応じてさらに適正な文言に修正・整理する。 ①耐震固定のさらなる充実と校内美化、ゴミ分別に係る活動をより充実させる。	①手順書は作成過程だが、本質である要修理箇所への対処は図られている。 ②防災マニュアルの修正は適切に出来ている。 ①分別の指導が徹底できたことは評価できる。	①要修理箇所の対処は評価できるが、手順書の作成を早期に進める必要がある。 ②年度ごとの課題に応じた防災マニュアル作成が必要である。 ①分別指導の徹底を図ることが出来た。	①業務の可視化及び明確化を図るために、速やかな手順書の作成、整備を進めることが必要である。 ②防災マニュアルをさらに充実させることが大切である。 ①ロッカー上の不要物の撤去を速やかに行う必要がある。

